

(人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

『深部温モニタリングによる概日リズム特性評価の有用性の検討』

本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【対象となる方】

2022年11月19日より2023年12月31日までの間に、睡眠・覚醒障害研究部で「ヒトの時計老化年齢を評価する血液バイオマーカーの探索とその応用(NCNP 倫理委員会承認番号:A2022-016)」の研究に参加された方

【研究期間】

2023年4月24日より2025年3月31日まで

【研究責任者】 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 睡眠・覚醒障害研究部
北村 真吾

【試料・情報の利用目的及び利用方法】

研究名称: 深部温モニタリングによる概日リズム特性評価の有用性の検討

利用目的: 私たちのからだには体内時計というものが備わっており、約24時間のリズムを自発的に作り出すことで、睡眠をはじめとしたさまざまな体の機能を調節しています。この体内時計の中核は脳の奥深くにある視交叉上核という小さい神経細胞群ですが、その働きを直接調べることができないため、視交叉上核の支配を受けてリズム性を示す生理指標を代わりに調べるのが一般的に行われており、深部体温(食道温、鼓膜温、直腸温など)はその代表的な一つです。深部体温は安価で迅速にリズム性を評価できますが、体の深部にセンサーを留置する必要があるため、測定にあたって負担が大きくなります。近年、深部温モニタリング機器により、皮膚上から深部温を推定可能になっています。本研究では、過去に上記研究において記録させていただいたデータを利用して、深部温モニタリング機器によって従来型の直腸温で測定した深部温と同様にリズム性を評価することができるかどうか調べることを目的としています。

利用方法: コンスタントルーチン法で収集された直腸温データとベアーハガー™ 深部温モニタリングシステムの推定深部温データを用いて、リズム性の指標が一致する程度を調査いたします。

【利用又は提供する試料・情報等】

情報等: 直腸温・ベアーハガーから得られたリズム性指標(底点・頂点・平均・振幅)、基本情報(年齢・性別・身長・体重・BMI)

利用する試料・情報の取得の方法

情報：研究データから入手

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

所属 睡眠・覚醒障害研究部 氏名 北村 真吾

電話番号

e-mail:s-kita※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局

e-mail:ml_rinrijimu※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)